

Forest通信 令和2年 10

No.380

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

ミヤマアカネ

(トンボ科)



透き通るような赤い身体。「最も美しい赤とんぼ」と言われるほどで、頭や翅の脈まで赤っぽく色づく。体長3~4cm程で、前後の翅に褐色の太い帯があるのが特徴。

平地から山地まで広く分布し、小川など水深が浅く緩やかな流れを好む。成虫は、7~11月頃に現れ、ススキやアシなどの草むらで摂食活動を行う。小さな昆虫を餌とし、飛びながら捕らえることができる。赤くなるのは秋の成熟した雄で、その前は黄褐色をしている。雌は橙褐色。成熟した個体は、浅い流れで産卵し、卵はそのまま越冬し、春に孵化して幼虫になり、夏まで水中で過ごす。

秋の風物詩の赤とんぼ。彼らにとっては次の世代に命をつなぐための最後の姿でもある。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

林野庁新規採用者が高尾山で植生を勉強



9月24日(木)、森林技術総合研修所の要請を受け、今年4月に総合職で入庁した職員17名と国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所に採用された研究職員12名の計29名に対して、高尾山の植生や国有林を活用した森林ふれあい事業などについての現地研修を実施しました。

当日は台風の影響により、当初予定していた一日コースを変更し、午前中は研修所での座学、午後はケーブルカー山上駅から頂上までを往復という行程になりましたが、高尾山は初めてという研修生がほとんどで、アラカシなどが生育する暖温帯の常緑照葉樹林とイヌブナなどが生育する冷温帯の落葉広葉樹林が尾根を挟んで両側に見られる様子に大きな関心を持ったようでした。途中、林野庁殉職者慰霊碑を参拝し、研修生が来年度から従事することになる現場業務での安全確保の重要性についても認識を深めてもらいました。

山頂往復の植生等観察は3班に分かれて実施し、

森林インストラクターの宮入芳雄氏とセンター職員2名で、木本・草本植物の特徴、見分け方などを解説するとともに、国有林内での人工林施業や境界の管理などについても学んでもらいました。

現地実習は半日という短い時間でしたが、研修生からはシカの被害や国有林の管理・利活用などについて質問が出され、これから林野庁等で活躍する新規採用者にとって有意義な研修になったと思います。(枝)



講師の解説を聞きながら植物を手に取る研修生

「火起こし体験」 はじめました！

木工クラフト体験室では、新型コロナ対策のため、一度に利用できる人数を制限して開館しています。

そのため、夏休みなど親子連れでにぎわい順番待ちをされている方のために、屋外かつ3密を避けて実施できる火起こし体験を実施しました。

「縄文時代の火起こし」と銘打ち、キリモミ式、ユミギリ式、ヒモギリ式の3種類を体験してもらい、火起こしに使ったばかりの焦げ跡のできた輪切りに草木染の紐をつけて持ち帰っていただきました。

これ以降、担当がいるとき（入口に体験マーク【写真1】が出ているとき）、火起こし体験ができるようになりました。

「縄文時代の火起こし」について解説します。

1. キリモミ式【写真2】

縄文遺跡から火切り板に焦げ跡のついたものが数多く出土しています。

やり方としては、手でヒキリ杵を回転させ火切臼との間で摩擦をお越して火種をつくります。

火起こしというと大体このやり方を頭に思い浮かべる方が多いと思いますが、やってみると皆さんなかなか火種ができるまでたどりつきません。最初から一生懸命がんばって、あと一歩で火種ができる寸前で力尽きてしまいます。コツは、最初はゆっくり回し、摩擦で温度があがり、煙が出て来るようになって黒い粉が落ち始めるころから回転速度を速めることです。

2. 弓切り式【写真3】

このやり方は、北方で始まったやり方で、弓でヒキリ杵を回転させハンドピースでおさえて火をおこすもので、比較的火種を作りやすいです。

3. ヒモギリ式【写真4】

二人で行なう火起こしで、一人がヒモを引っ張り、一人が火切杵をハンドピースでおさえます。両者の息が合えば火種は容易にできます。

体験した方からは「3つの方式を一度に体験できて子供から大人まで楽しみながら火起こしが出来た」という感想をいただきました。



体験マーク【写真1】



みごと着火



キリモミ式【写真2】



弓切り式【写真3】



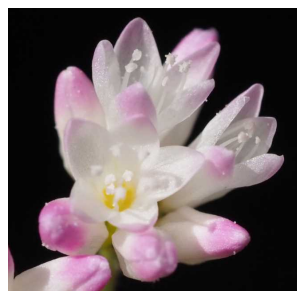
ヒモギリ式【写真4】

当センターへお越しいただき、木と触れ合いながら、縄文時代の人たちの暮らしの一端をかいまみることのできる火起こし体験をしてみてください。（富）

編集後記

この季節に同じような場所で花を咲かせる、ミソバ・アキノウナギツカミ・ママコノシリヌグイ。

花は似ていますが、比べると葉や茎、トゲの状態などに違いがあることがわかります。



ミソバの花

Forest通信 NO.380

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

